

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

15

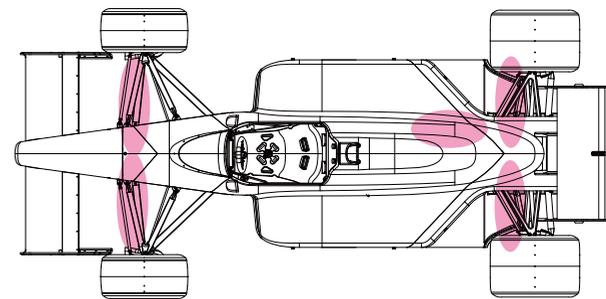
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 55 水冷式オイルクーラーを組み立てる

今号は、まずエンジンに取り付けられる水冷式オイルクーラーを組み立てる。次に、指定のサイズにカットしたラインラベルBを用いて、ブレーキラインTピースから伸びているホースAとブレーキライン(左前)(右前)に接続したホースAをそれぞれ固定し、実車のディテールを再現する。



今号のパーツ

① 水冷式オイルクーラー (外)



③ エンジンマウントプレート(右) ダイキャスト製



② 水冷式オイルクーラー (内)



④ ジョイント(上)



⑤ ジョイント(下)



⑥ ビスK (1.4 × 10P-M SiL) × 2



⑦ ビスL (1.4 × 8P-M SiL) × 2



※ビスは予備1本を含む。

※①②④⑤はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・カットングマット
- ・はさみ・ピンセット・定規・つまようじ

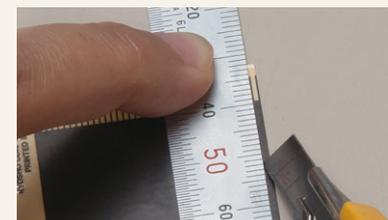
用意するもの

- ・ラインラベルB ※49号で提供
- ・ギアボックス ※52号で組み立て
- ・モノコック ※53号で組み立て

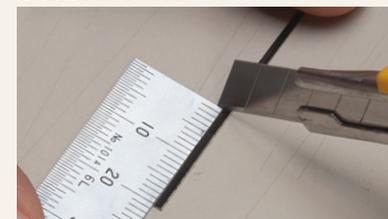
ポイント

ラインラベルBの使い方

●ホースAを固定するために用いるラインラベルBは、両側に1ミリ幅の印がついている。使用する際には、まず使用する幅にカットする。次に指定の長さにカットし、最後に裏の剥離紙をはがす。



① 使用する幅にカット



② 指定の長さにカット



水冷式オイルクーラーは、エンジンオイルの温度管理をラジエーターからの冷却水で行っている。空冷式とは異なり、エンジンが動いていれば機能する仕組みとなっている。マクラーレン社への取材により、本モデルのディテールが再現できた。また、ラジエーター(右)の上部同様に、プレートも再現した。

◀MP4/4の水冷式オイルクーラー。

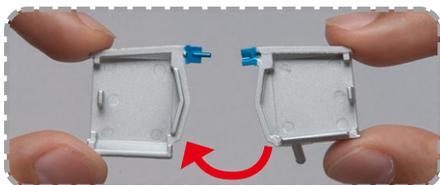
1 水冷式オイルクーラーを組み立てる

- ① 水冷式オイルクーラー(外)の表面には、プレートの印刷がしてある。組み立ての際には、なるべく印刷部分に触らないようにする。

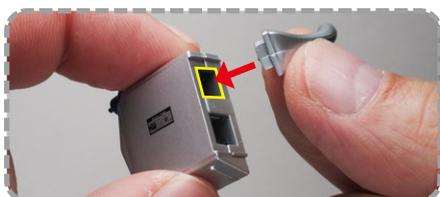


《仮組み》

- 水冷式オイルクーラー(外)と② 水冷式オイルクーラー(内)を組み合わせて接着面を確認する。

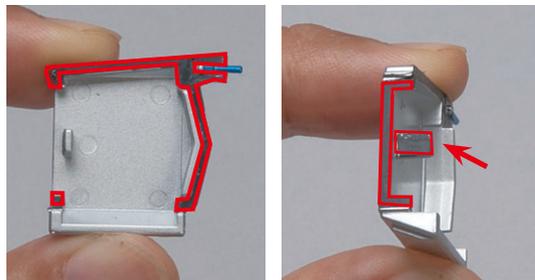


- 水冷式オイルクーラーの黄色い枠で示した部分に④ ジョイント(上)を、青枠で示した部分に⑤ ジョイント(下)を写真のように組み合わせて、それぞれ接着面を確認する。

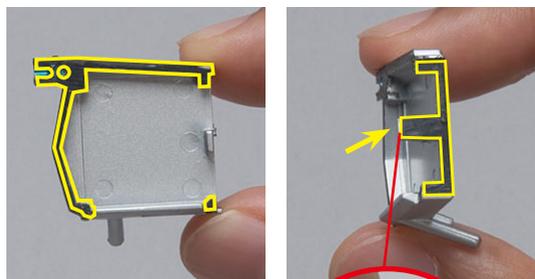


- ジョイント(上)(下)が正しい向きで組み合わさっているか確認する。

- 水冷式オイルクーラー(外)の赤枠で示した水冷式オイルクーラー(内)との接着面と、赤矢印で示した突起の面と、赤枠で示したジョイント(上)(下)との接着面の塗装を、カッターの刃のない部分で削る。

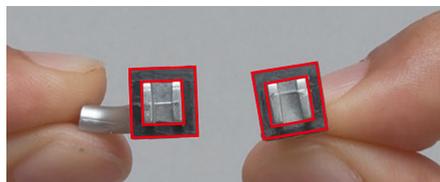


- 水冷式オイルクーラー(内)の黄色い枠で示した水冷式オイルクーラー(外)との接着面、黄色い矢印で示した突起の両面と、黄色い枠で示したジョイント(上)(下)との接着面塗装を、カッターの刃のない部分で削る。

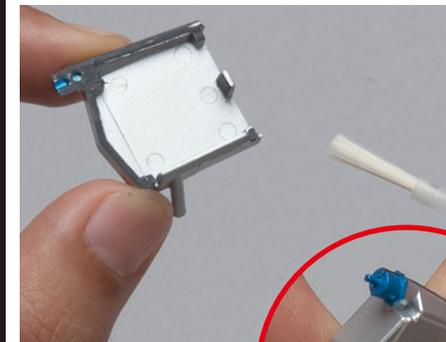


- 水冷式オイルクーラー(内)の黄色い矢印で示した突起は、反対面も塗装を削る。

- ジョイント(上)(下)の赤枠で示した接着面の塗装を、カッターの刃のない部分で削る。



- 水冷式オイルクーラー(内)の接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように水冷式オイルクーラー(外)を組み合わせ、2~3分押さえる。



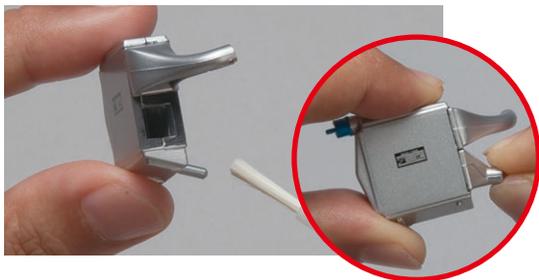
- プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤は、水冷式オイルクーラー(内)に塗る。

- 水冷式オイルクーラーの接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにジョイント(上)を組み合わせ、2~3分押さえる。



- プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤が外にはみ出ないように注意する。

- 水冷式オイルクーラーの接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにジョイント(下)を組み合わせ、2~3分押さえる。

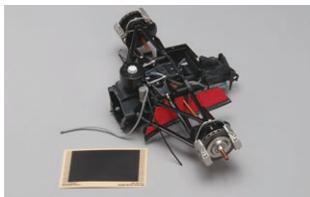


- 1時間ほど置いて、完全に接着されたことを確認する。

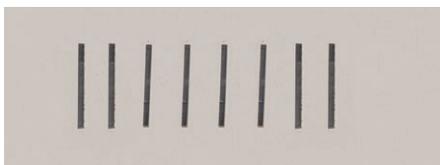


2 ラインラベルBでリアサスアーム(左上)(右上)にホースAを固定する

- 52号で組み立てたギアボックスと49号で提供されたラインラベルBを用意する。



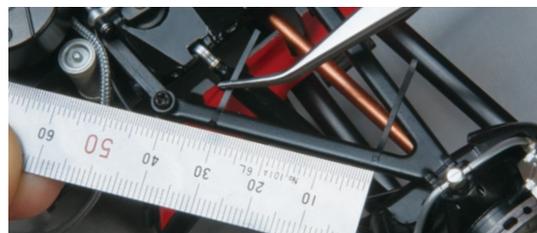
- ポイントを参照しながら、1×20ミリにカットしたラインラベルBを8本用意する。



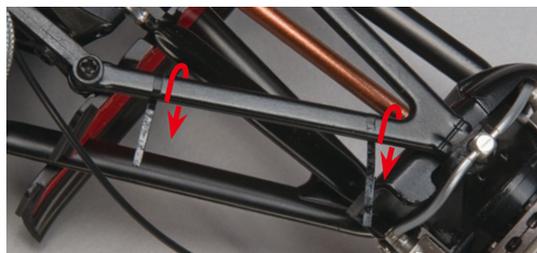
- リアサスアーム(左上)の赤矢印で示した凹みの部分から約10ミリのところの上面に、ラインラベルBを後方へ向かって貼る。



- 先に貼ったテープの端から約30ミリのところに、同様にラインラベルBを貼る。



- それぞれのテープをリアサスアームの下側を通し、先端を前方に向ける。



- ブレーキラインTピースから伸びているホースAを、リアサスペンションプレートからリアサスアーム(左上)に沿わせて、ラインラベルBで固定する。



- そのままホースAを先端まで沿わせて、ラインラベルBで固定する。



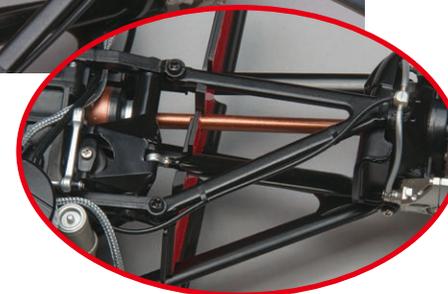
《仮組み》

ホースAの先端を赤丸で示したブレーキライン中央部の穴に差し込む。

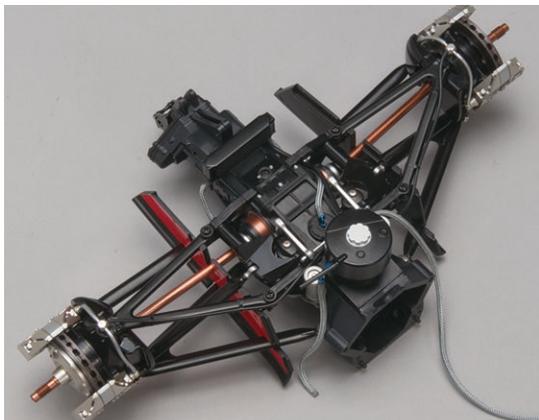


■ リアアップライトはフロントのように可動しないので、ホースAに大きなゆとりは必要ない。ホースAが長すぎる場合は、はさみで適度にカットする。

- ホースAの先端につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにブレーキライン中央部の穴に差し込み、1分ほど押さえる。



- 同様に、リアサスアーム(右上)にラインラベルBを2カ所に貼り、ブレーキラインTピースから伸びている、もう片方のホースAを固定し、先端をブレーキライン中央部の穴に接着する。



3 ラインラベルBでブレーキラインに取り付けたホースAを固定する

- 53号で組み立てたモノコックを用意する。



- モノコックの左に取り付けたブレーキキャリパー全体を持って、ステアリングを左一杯に切る。



- これにより、ブレーキライン(左前)に接続したホースAが一番長い状態となる。

- モノコックを裏返し、フロントサスアーム(左下)の赤矢印で示した段差から約10ミリと、そこから約30ミリの部分に1本ずつ、ステップ2で用意したラインラベルBを貼る。



- 53号でブレーキライン(左前)に取り付けたホースAを、写真のように配置しながら、ラインラベルBで固定していく。



- ホースAの先端は、写真のように前方へ向けてモノコックの赤矢印で示した穴の中に差し込む。



- ブレーキキャリパーを右一杯に切って、次の作業の準備をする。



- 左側と同様に、フロントサスアーム(右下)にラインラベルBを貼り、ブレーキライン(右前)に取り付けたホースAを固定し、先端を前方へ向けてモノコックの穴の中に差し込む。



今号の完成

水冷式オイルクーラーを組み立てたほか、ブレーキラインTピースから伸びているホースAをリアサスアーム(左上)(右上)に、ブレーキライン(左前)(右前)に取り付けたホースAをフロントサスアーム(左下)(右下)に、それぞれラインラベルBで固定した。



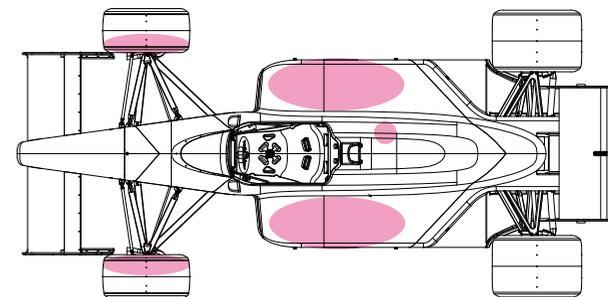
保管パーツ

今号で使用しなかった③エンジンマウントプレート(右)、⑥ビスK、⑦ビスL、ラインラベルBの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

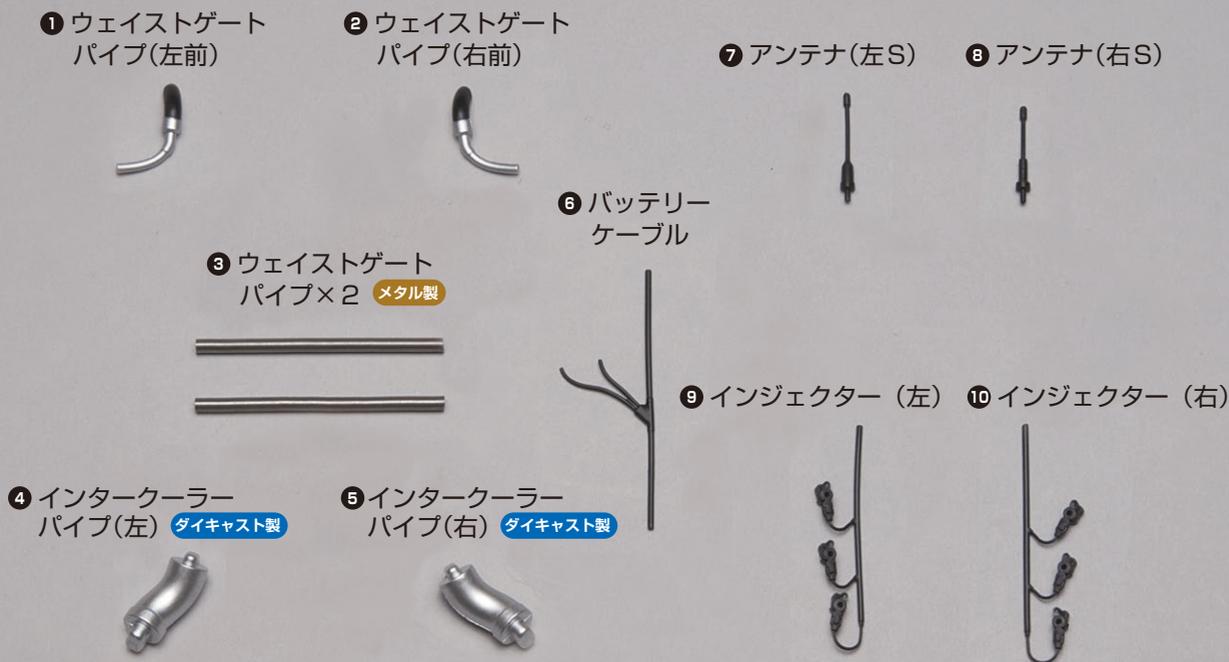


Mission 56 サイドポンツーンを取り付ける

今号はモノコックを用意して、フロントアップライトにフロントブレーキダクト(左)(右)を装着し、次にスロットルケーブルブラケットの取り付けを行う。さらに、モノコックをアンダーパネル(前)に組み合わせ、サイドポンツーン(左)(右)を取り付けることで、完成のイメージにより近づく。



今号のパーツ



※ ①、②、⑥～⑩はPVC (ポリ塩化ビニル)製。

インジェクターは、電子制御により燃料を安定して供給する燃料噴射装置のこと。本モデルでは、バッテリーケーブルやインジェクター本体をPVC (ポリ塩化ビニル) 製とすることで、分岐しているパーツなどのディテールをより繊細に再現している。また、インタークーラーパイプもダイキャスト製にすることで、質感を実車に近づけている。

◀MP4/4のインジェクター

今号で使用する道具

- ・プラスドライバー(00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター ・定規 ・マスキングテープ
- ・シャープペンシルなど

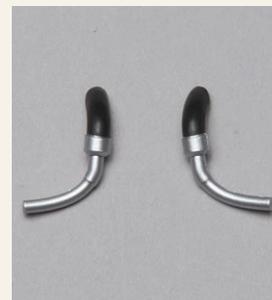
用意するもの

- ・フロントブレーキダクト(左) ※8号で提供
- ・フロントブレーキダクト(右) ※11号で提供
- ・サイドポンツーン(右) ※32号で組み立て
- ・サイドポンツーン(左) ※51号で組み立て
- ・スロットルケーブルブラケット ※49号で提供
- ・アンダーパネル(前) ※49号で組み立て
- ・モノコック ※55号で組み立て

ポイント

PVC製のウェイトゲートパイプについて

●ウェイトゲートパイプ(左前)(右前)は、PVC(ポリ塩化ビニル)に銀色の塗装が施されている。柔軟性のあるPVCを折り曲げたりすると、塗装表面が割れたり、はがれたりすることがあるので、取り扱いには注意する。



In Focus

1 フロントアップライトにフロントブレーキダクト(左)(右)を装着する

- 55号で組み立てたモノコックと8号と11号で提供されたフロントブレーキダクト(左)(右)を用意する。



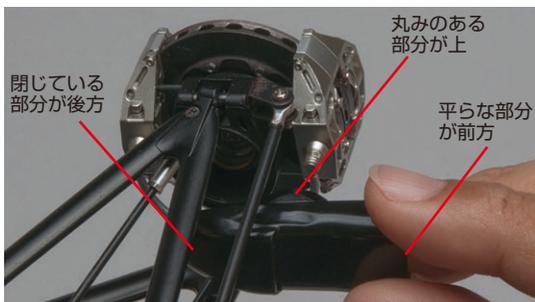
- フロントブレーキダクトは、写真のように並べると、赤矢印で示した丸みのある部分の位置で左右の区別ができる。フロントブレーキダクト(左)(右)を確認しておく。



- フロントブレーキダクト(左)をフロントアップライト(左)に合わせる。



- フロントブレーキダクト(左)の丸みのある側から差し込むように組み合わせる。



- 全体を押さえるようにして、フロントブレーキダクト(左)をはめる。



- はめる際に、ブレーキキャリアには触れないよう注意する。

- 同様に、フロントブレーキダクト(右)をフロントアップライト(右)にはめる。



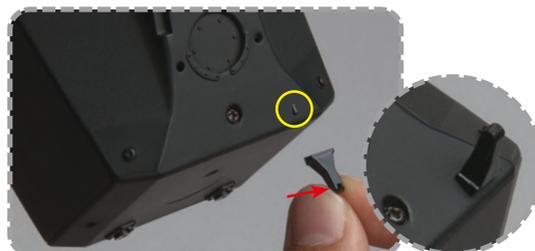
2 モノコックにスロットルケーブルブラケットを取り付ける

- 49号で提供されたスロットルケーブルブラケットを用意する。

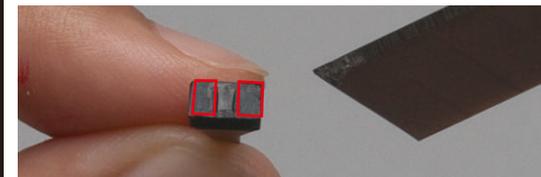


《仮組み》

- スロットルケーブルブラケットの赤矢印で示した穴を車体前方に向け、モノコックの右後部の黄色い丸で示した突起に合わせ、接着面を確認する。



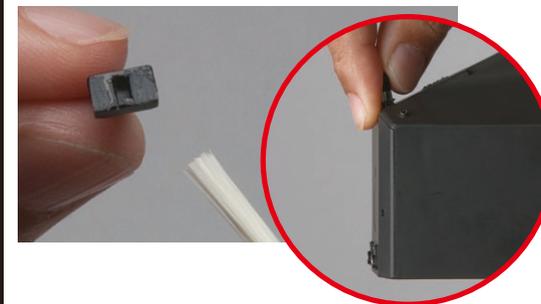
- スロットルケーブルブラケットの赤枠で示した接着面を、カッターの刃のない部分ではがす。



- モノコックの突起の両側、赤線で示した1ミリ幅程度の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



- スロットルケーブルブラケットの接着面にプラモデル(スチロール樹脂用)接着剤を少量塗り、仮組みしたようにモノコックに合わせて、2~3分押さえる。



- 1時間ほど置き、完全に接着されたことを確認する。



3 モノコックにサイドポンツーン(左)(右)を取り付ける

● 51号と32号で組み立てたサイドポンツーン(左)(右)と49号で組み立てたアンダーパネル(前)を用意する。



● モノコックの左右後端の、赤丸で示したワッシャーAと組み合わせてあるビスJ×2をそれぞれ外す。

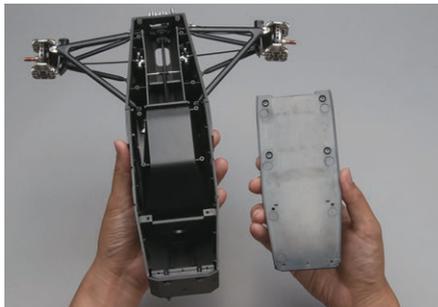


■ 外したワッシャーAとビスJは今後の組み立てには使用しないので、それぞれの予備と一緒にしておく。

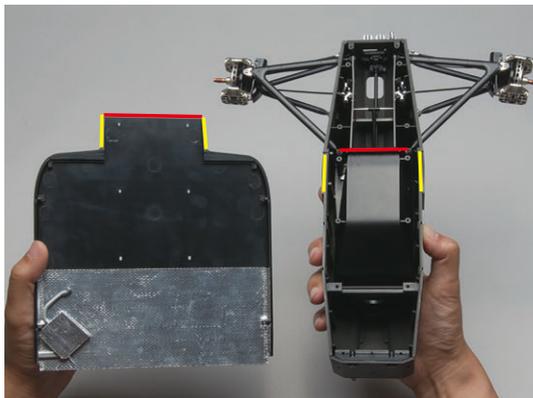
● モノコックを裏返し、赤丸で示したモノコックボトムプレート(後)を留めているビスJ×4を外す。



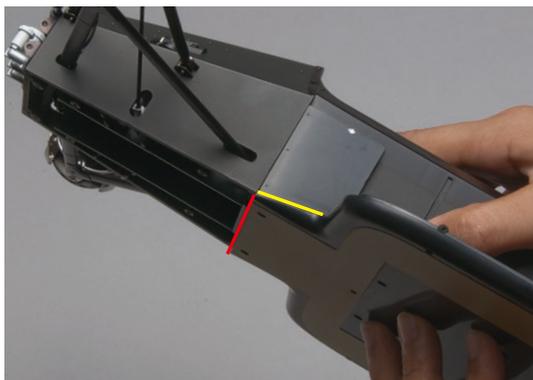
● モノコックボトムプレート(後)を取り外す。



● モノコック底部の赤線と黄色い線で示した部分と、アンダーパネル(前)の同色で示した部分が重なるので確認する。



● 確認したようにモノコック底部にアンダーパネル(前)を組み合わせる。



《仮組み》

サイドポンツーン(左)の赤線で示した2本の突起と、モノコックの左側面の黄色い線で示した2本の溝を合わせて、接着面を確認する。

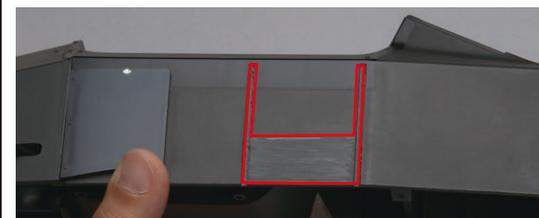


■ サイドポンツーン(左)の接着面は2本の突起のほかにも、青枠で囲んだ部分も接着面となる。

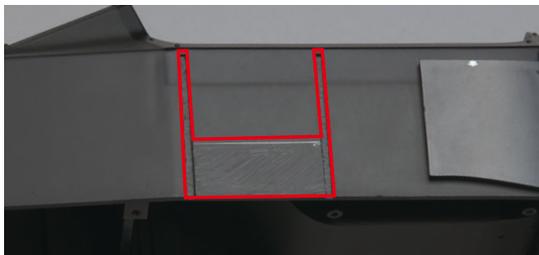
● サイドポンツーン(左)の青枠で示した部分との接着面となるモノコック左側面の2本の溝の間、下から約15ミリのところにシャープペンシルなどで線を引く。



● 赤枠で示したモノコック左側面の2本の溝と線を引いた部分の下側全体の塗装を、カッターの刃のない部分ではがす。



● 同様に、モノコック右側面の2本の溝の間、下から約15ミリのところにシャープペンシルなどで線をひき、赤枠で示した2本の溝と線を引いた部分の下側全体の塗装を、カッターの刃のない部分ではがす。



● モノコックを再びアンダーパネル(前)に組み合わせる。



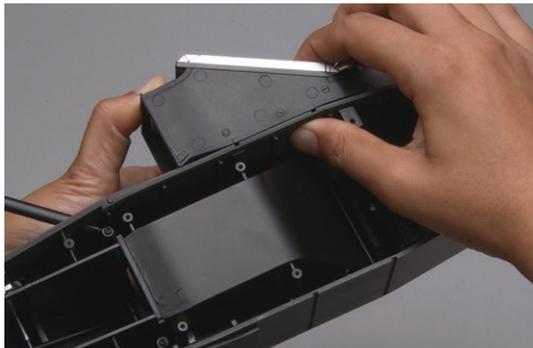
● サイドポンツーン(左)の接着面にブラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコックの左側に組み合わせる。



■ 組み合わせたり、押さえたりする際、コックピット内に取り付けたパーツには触れないよう注意する。



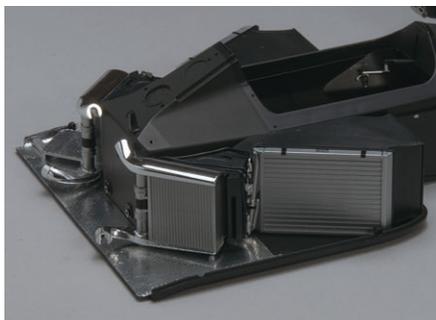
● サイドポンツーン(左)とモノコックの接着面がぴったり重なっていることを確認しながら、2~3分押さえる。



● 5センチほどにカットしたマスキングテープを用意し、サイドポンツーン(左)とモノコックを写真のように固定する。



● 同様に、モノコック右側面にサイドポンツーン(右)を取り付ける。1時間ほど置いて、完全に接着したことを確認してからマスキングテープをはがす。



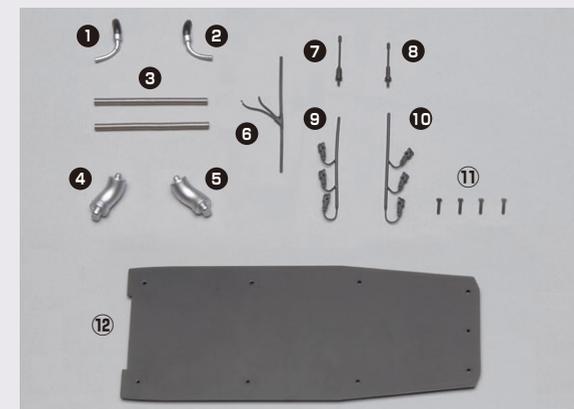
今号の完成

今号は、フロントアップライト(左)(右)にフロントブレーキダクト(左)(右)をそれぞれ装着し、モノコックにスロットルケーブルブラケットとサイドポンツーン(左)(右)を取り付けた。



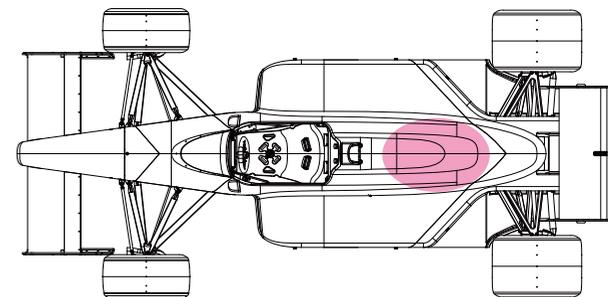
保管パーツ

今号で使用しなかった① ウェイストゲートパイプ(左前)、② ウェイストゲートパイプ(右前)、③ ウェイストゲートパイプ×2、④ インタークーラーパイプ(左)、⑤ インタークーラーパイプ(右)、⑥ バッテリーケーブル、⑦ アンテナ(左S)、⑧ アンテナ(右S)、⑨ インジェクター(左)、⑩ インジェクター(右)と、今号で取り外した⑪ ビスJ×4、⑫ モノコックボトムプレート(後)は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



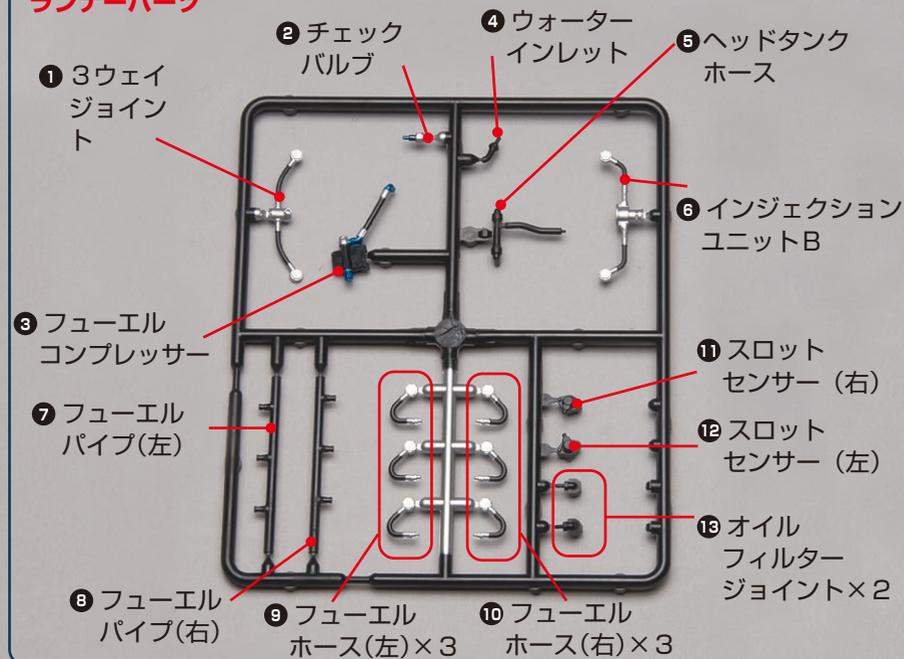
Mission 57 エンジンを組み立てる⑦

今号は、まずコネクターを装着したインジェクター（左）（右）を、エンジンブロックに取り付ける。次に、ランナーパーツから3ウェイジョイント、インジェクションユニットB、フューエルパイプ（左）（右）を切り離し、それぞれの向きを確認しながらフューエルパイプを組み立てる。



今号のパーツ

ランナーパーツ



14 テールパイプ(外)×2



15 テールパイプ(内)×2



※ ①～⑮はHIPS（スチロール樹脂）製。

今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤 ・ピンセット ・つまようじ
- ・カッター ・カッティングマット

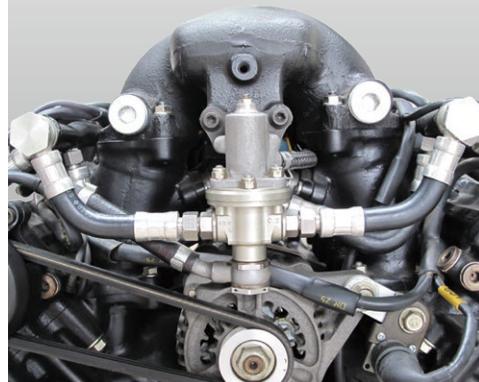
用意するもの

- ・コネクター×2 ※51号で使用したランナーパーツ
- ・エンジンブロック ※54号で組み立て
- ・インジェクター（左）（右） ※56号で提供

ポイント

インジェクターの左右、前後、表裏の見分け方

●インジェクターは写真のようにふたつ並べた際に、短い方が（左）、長い方が（右）となる。また、ケーブルが伸びている方が車体前方、穴の形状が丸い方が表、黄色い矢印で示した切れ込みがある方が裏となる。



インジェクションユニットAとBからなるプレッシャーレギュレーターは、内部にあるスプリングとダイヤフラムが働くことで、フューエルパイプ内の燃料圧力を一定レベルに保ち、インジェクターからの燃料噴射量の精度を高めている。本モデルでは、関連パーツのホース部分を黒色、金属部分を銀色に塗り分けるなど、そのディテールを詳細に再現している。

◀MP4/4のプレッシャーレギュレーター。

In Focus

1 インジェクター (左) (右) にコネクタを装着する

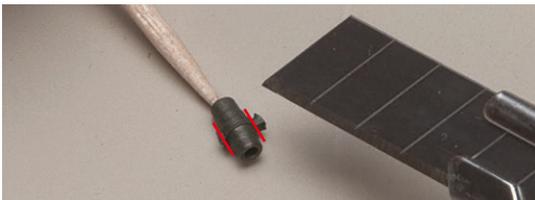
- 51号で使用したランナーパーツのコネクタと、56号で提供されたインジェクター(左)(右)を用意する。



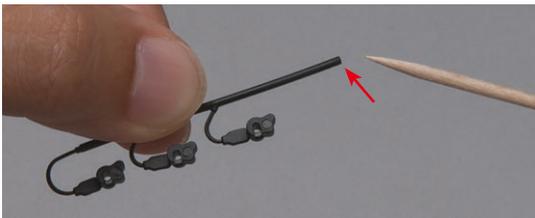
- ランナーパーツを裏返し、赤線で示した部分をカッターでカットし、コネクタを2個切り離す。



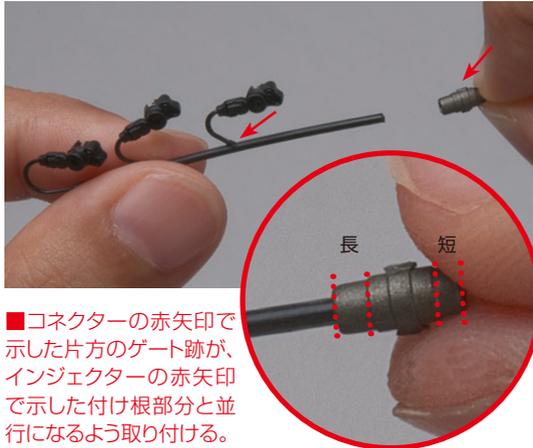
- それぞれ、つまようじなどで押さえながら、コネクタに残ったゲート部分をカッターでカットする。



- インジェクター (左) の赤矢印で示した先端に、つまようじの先で瞬間接着剤を少量塗る。



- 51号のポイント参照しながら、コネクタの長い方の側をインジェクター (左) に差し込んで1分ほど押さえる。



- コネクタの赤矢印で示した片方のゲート跡が、インジェクターの赤矢印で示した付け根部分と並行になるよう取り付ける。

- 同様に、インジェクター (右) に残りのコネクタを装着する。



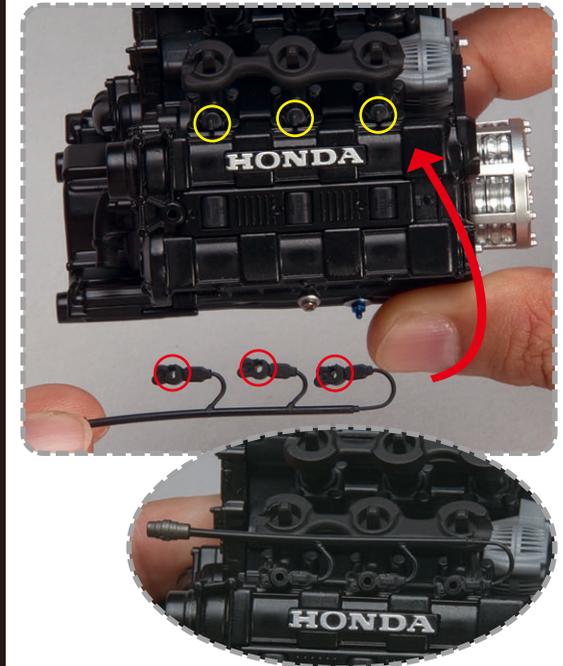
2 エンジンブロックにインジェクター (左) (右) を取り付ける

- 54号で組み立てたエンジンブロックを用意する。

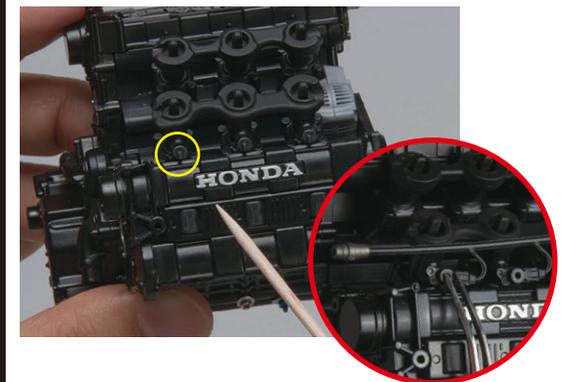


《仮組み》

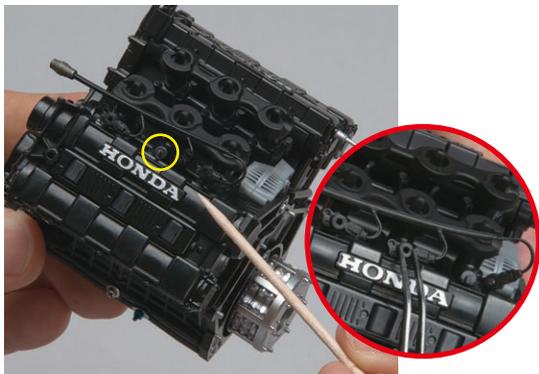
インジェクター (左) の赤丸で示した切れ込みのある3つの穴を、エンジンブロックの左上にある黄色い丸で示した3カ所の突起に組み合わせ、接着面を確認する。



- エンジンブロックの黄色い丸で示した突起の根本に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにインジェクター (左) を合わせて1分ほどピンセットで押さえる。



● 同様に、エンジンブロックの黄色い丸で示した突起の根本に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにインジェクター（左）を合わせて1分ほどピンセットで押さえる。



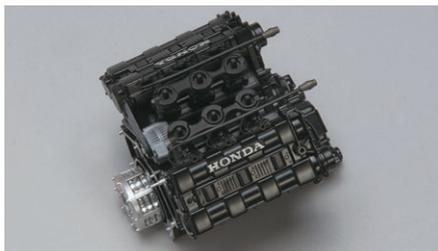
● 同様に、最後の突起の根本に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにインジェクター（左）を合わせて1分ほどピンセットで押さえる。



● エンジンブロックの左上部にインジェクター（左）が取り付けられた。



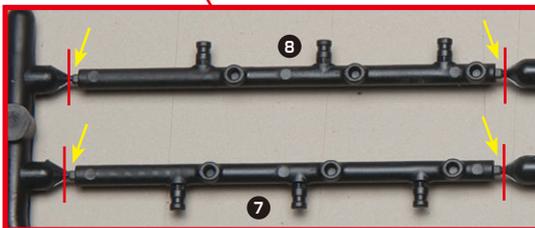
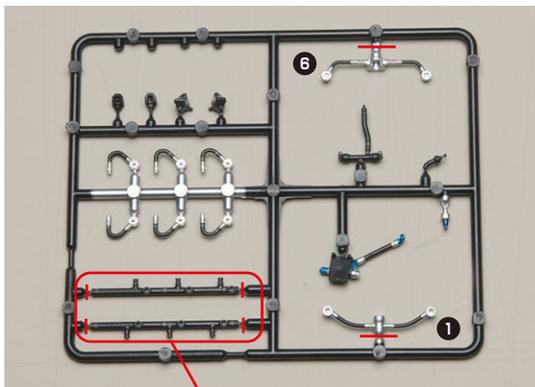
● 同様の作業で、インジェクター（右）をエンジンブロックの右上部に取り付ける。



3

3 **燃料パイプ（左）（右）、3ウェイジョイント、インジェクションユニットBを組み合わせる**

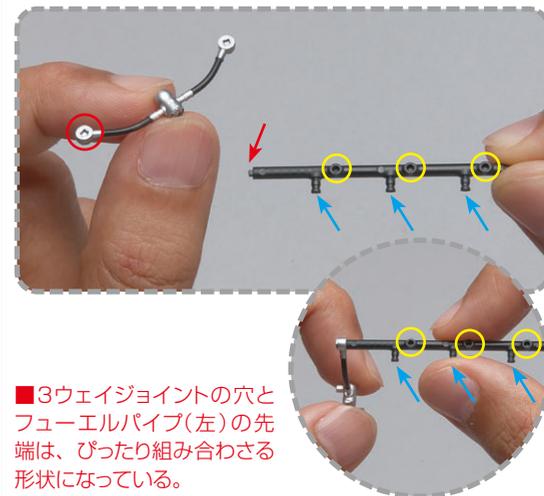
● ランナーパーツを裏返し、① 3ウェイジョイント、⑥ インジェクションユニットB、⑦ 燃料パイプ（左）、⑧ 燃料パイプ（右）をカッターで切り離す。



■ 燃料パイプ（左）と燃料パイプ（右）は、それぞれ黄色い矢印で示した部分に突起があることに注意し、赤線で示した部分をカッターでカットする。

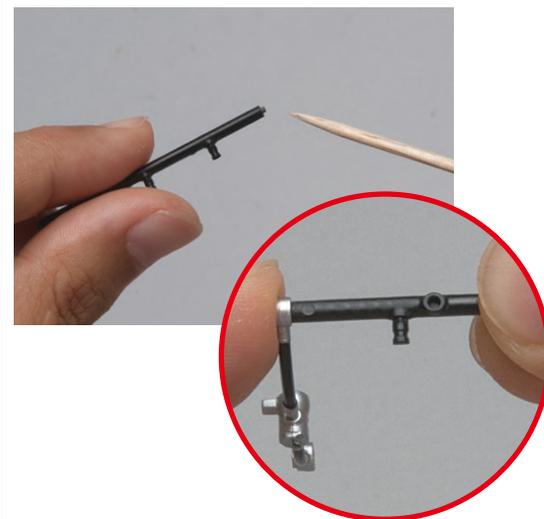
《仮組み》

3ウェイジョイントの赤丸で示した四角い穴に、燃料パイプ（左）の赤矢印で示した四角い先端を組み合わせるのを確認する。燃料パイプは黄色い丸で示した3つの凹みを外側に、青矢印で示した3つの突起を下に向けてはめる。

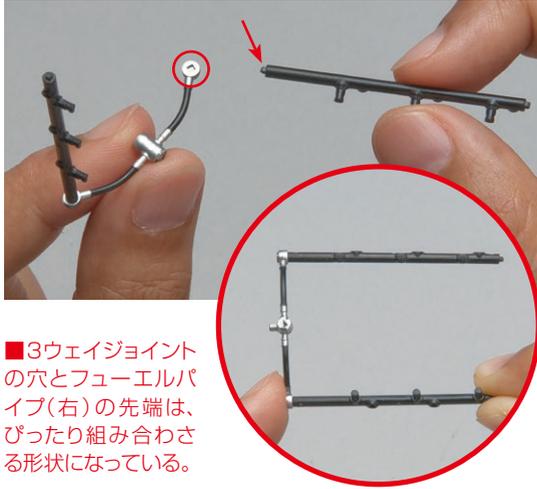


■ 3ウェイジョイントの穴と燃料パイプ（左）の先端は、ぴったり組み合わさる形状になっている。

● 燃料パイプ（左）の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたように3ウェイジョイントに合わせて1分ほど押さえる。



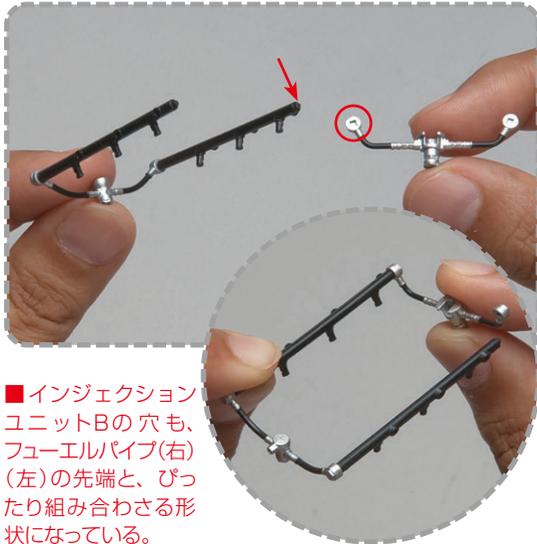
● 同様に、3ウェイジョイントの赤丸で示したもう片方の四角い穴に、フューエルパイプ(右)の側面の3つの凹みを外側に、3つの突起を先端を下側に向けて、赤矢印で示した四角い先端を接着する。



■ 3ウェイジョイントの穴とフューエルパイプ(右)の先端は、ぴったり組み合わせる形状になっている。

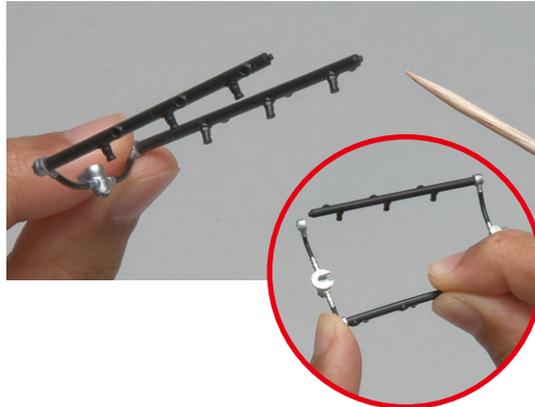
《仮組み》

赤矢印で示したフューエルパイプ(右)の先端と、インジェクションユニットBの赤丸で示した穴を組み合わせるので確認する。

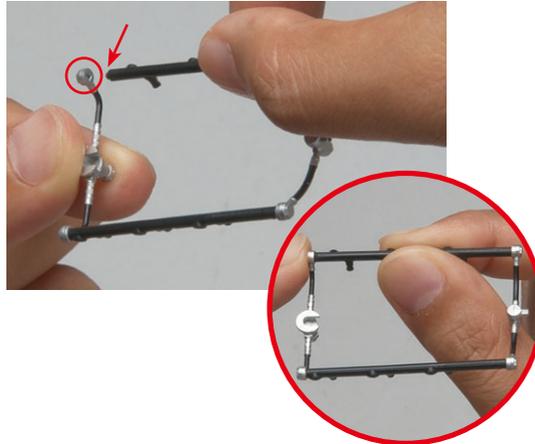


■ インジェクションユニットBの穴も、フューエルパイプ(右)(左)の先端と、ぴったり組み合わせる形状になっている。

● フューエルパイプ(右)の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにインジェクションユニットBを組み合わせて1分ほどおさえる。



● 同様に、フューエルパイプ(左)をインジェクションユニットBに接着する。

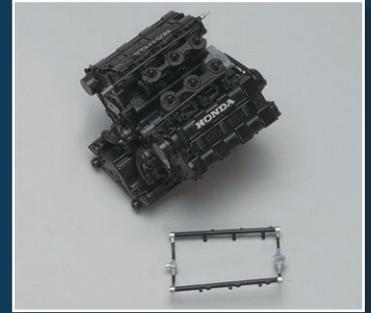


● フューエルパイプが完成した。



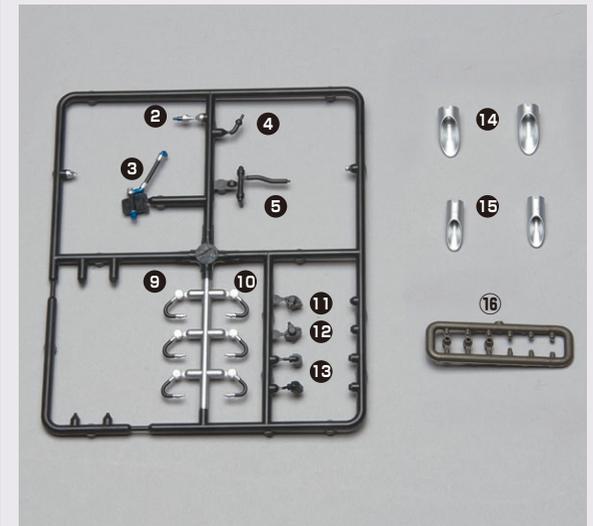
今号の完成

エンジンブロックにコネクターを装着したインジェクター(左)(右)を取り付け、フューエルパイプを組み立てた。



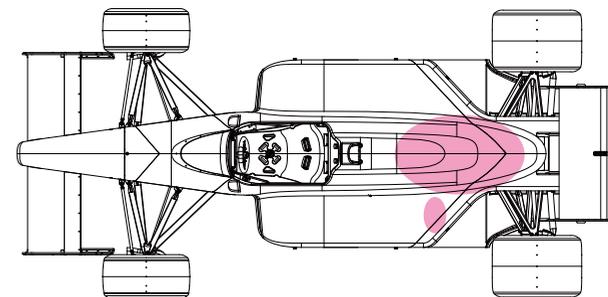
保管パーツ

今号で使用しなかったランナーパーツの②チェックバルブ、③フューエルコンプレッサー、④ウォーターインレット、⑤ヘッドタンクホース、⑨フューエルホース(左)×3、⑩フューエルホース(右)×3、⑪スロットセンサー(右)、⑫スロットセンサー(左)、⑬オイルフィルタージョイント×2と⑭テールパイプ(外)×2、⑮テールパイプ(内)×2のほか、⑯ランナーパーツのコネクターの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



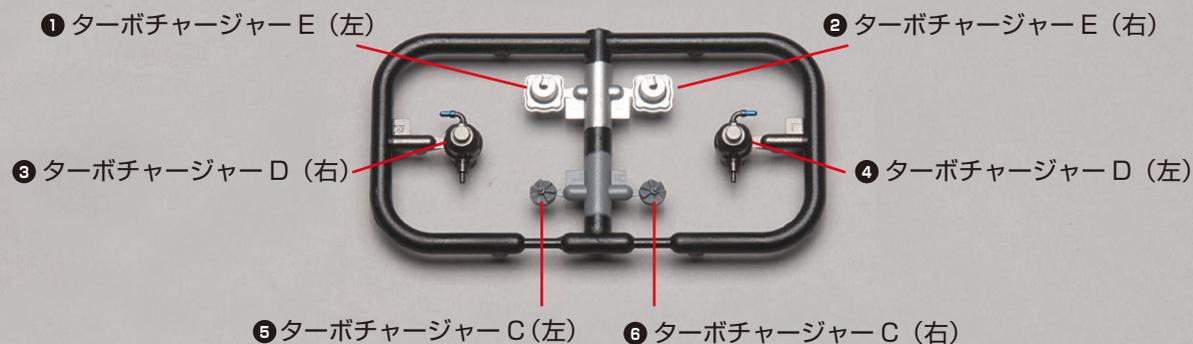
Mission 58 ターボチャージャー (左) を組み立てる

今号は、まずターボエンジンの心臓部ともいえるターボチャージャー (左)を組み立てる。その後に、エンジンブロックにフューエルパイプを接続したフューエルホースを取り付ける。これにより、エンジンブロック上部のディテールがさらに実車に近づく。



今号のパーツ

ランナーパーツ



⑦ ターボチャージャー A (左) ⑧ ターボチャージャー B (左) ⑨ ターボチャージャー F (左)



※ ①～⑨はHIPS (スチロール樹脂)製。

圧縮した空気をエンジンに送り込むターボチャージャーは、ターボエンジンの心臓部といえる部品だ。本モデルでは、インレットダクトを取り付けてしまうと見えなくなってしまうファンネル (ターボチャージャーC) を左右の対称の形まで再現。またターボチャージャーAにある文字も実車同様モールドとして再現し、プレート部分は後の号でラベルとして提供される。ホースの接続部分 (ターボチャージャーD) も実車と同様に塗装している。

◀MP4/4のターボチャージャー。

今号で使用する道具

- ・プラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤
- ・瞬間接着剤 ・ピンセット ・つまようじ
- ・カッター ・カッティングマット

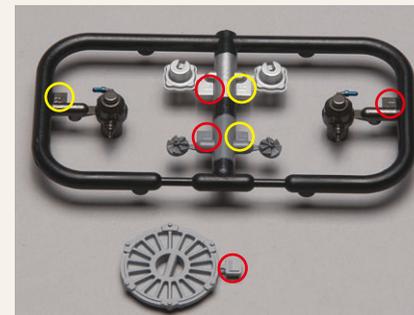
用意するもの

- ・フューエルホース (左) × 3
※ 57号提供のランナーパーツ
- ・フューエルホース (右) × 3
※ 57号提供のランナーパーツ
- ・エンジンブロック ※ 57号で組み立て
- ・フューエルパイプ ※ 57号で組み立て

ポイント

左右のあるパーツについて

●今号提供のパーツには、パーツやそのパーツのすぐ近くのランナーに左右を見分ける印がついているので確認できる。赤丸で示した「L」は左、黄色い丸で示した「R」は右を意味する。



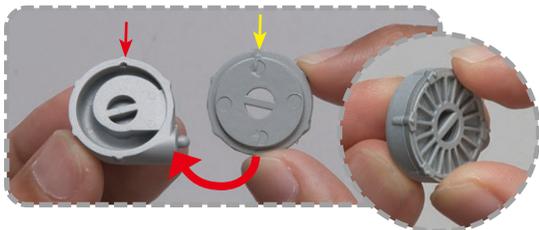
1 ターボチャージャー (左) を組み立てる

- ⑥ターボチャージャー B (左)についている印をカッターで切り離す。



《仮組み》

- ⑦ターボチャージャー A (左)の赤矢印で示した凹みと、ターボチャージャー B (左)の黄色い矢印で示した突起を組み合わせるのを確認する。



- ターボチャージャー A (左)とターボチャージャー B (左)のそれぞれ赤枠で示した接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



- ターボチャージャー B (左)の表面、赤枠で示した部分も後に接着面となるので、カッターの刃のない部分ではがす。

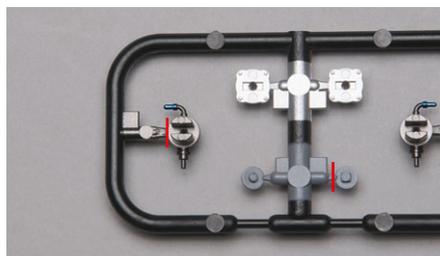


- ターボチャージャー A (左)の接着面にプラモデル (スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにターボチャージャー B (左)を組み合わせて、2~3分押さえる。



- 接着後は、そのまま1時間ほど置いて、完全に接着されていることを確認する。

- ランナーパーツを裏返し、④ターボチャージャー D (左)と⑤ターボチャージャー C (左)の赤線の部分をカッターでランナーから切り離す。



《仮組み》

- ターボチャージャー C (左)の裏面にある黄色い枠で示した四角い突起と、ターボチャージャー A (左)の赤枠で示した四角い凹みを組み合わせるので、確認する。



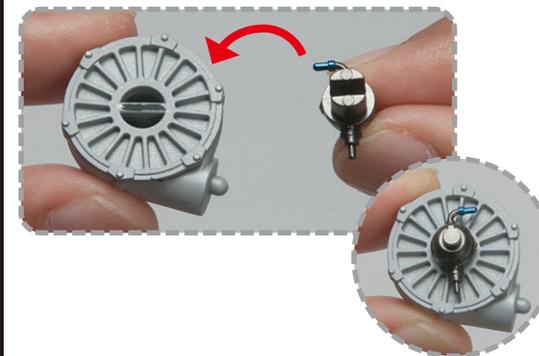
- ターボチャージャー C (左)を入れたら、つまようじの先などで位置を調整する。

- ターボチャージャー A (左)の四角い凹みに、つまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにターボチャージャー C (左)を組み合わせ、つまようじの裏などで1分ほど押さえる。

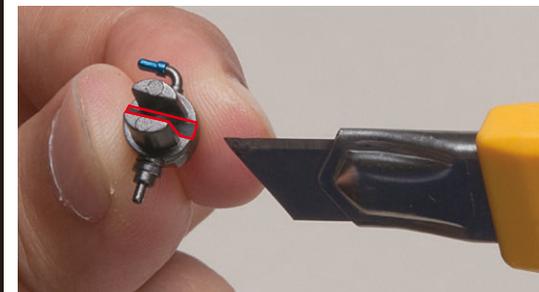


《仮組み》

- ターボチャージャー B (左)の2つの穴に、ターボチャージャー D (左)の二股に分かれている部分を写真のような向きで差し込み、接着面を確認する。



- ターボチャージャー D (左)の赤枠で示した接着面の塗装を、カッターの刃のない部分ではがす。



- ターボチャージャーB(左)の接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、仮組みしたようにターボチャージャーD(左)を組み合わせて、2~3分押さえる。



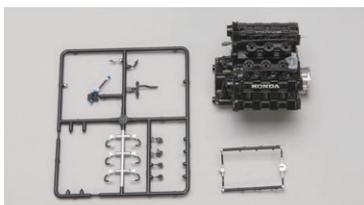
- そのまま1時間ほど置いて、完全に接着されたことを確認する。ターボチャージャー(左)ができた。



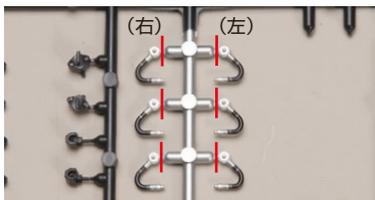
2

フェューエルパイプにフェューエルホース(左)(右)を接続し、エンジンブロックに取り付ける

- 57号提供のランナーパーツのフェューエルホース(左)×3と(右)×3、57号で組み立てたエンジンブロックとフェューエルパイプを用意する。



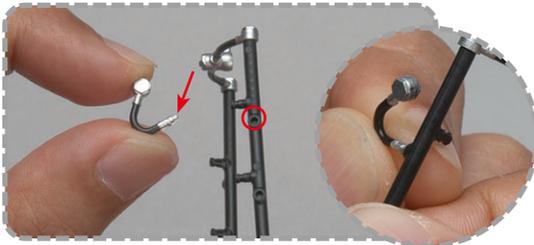
- ランナーパーツを裏返し、フェューエルホース(左)(右)を各3つずつ、赤線の部分をカッターで切り離す。



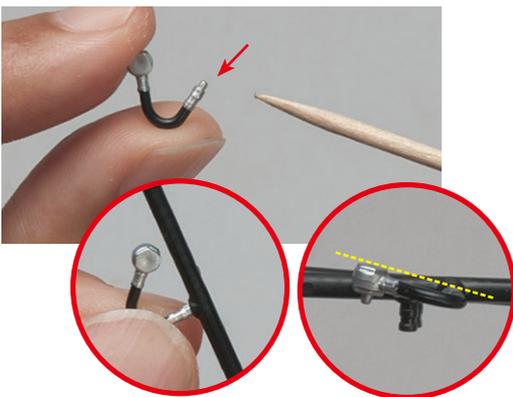
■パーツが小さいので、ひとつずつ接着する度に切り離すとよい。

《仮組み》

フェューエルパイプの左側の赤丸で示した凹みに、フェューエルホース(左)の赤矢印で示した先端を組み合わせるので、確認する。

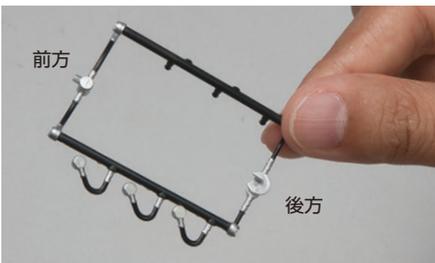


- フェューエルホース(左)の赤矢印で示した先に、つまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにフェューエルパイプに組み合わせ、1分ほど押さえる。



- 黄色い点線で示したように、フェューエルホースの先端がやや上に向くようにする。

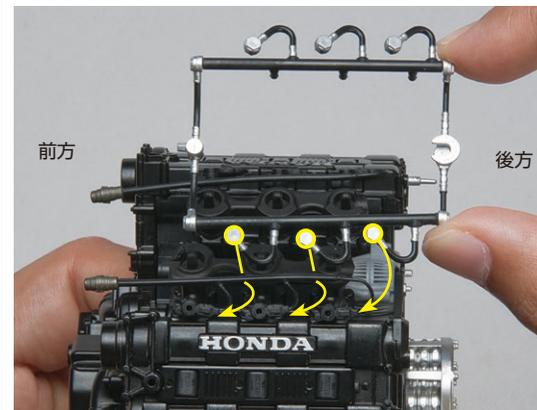
- 同様に、フェューエルパイプの左側、残りの2カ所の凹みに、それぞれフェューエルホース(左)を接続する。



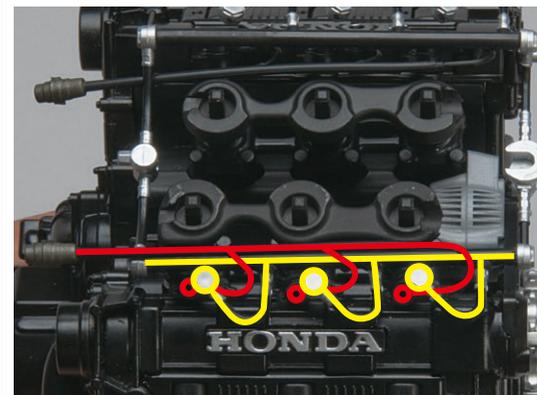
- 同様の作業をして、フェューエルパイプの右側に、フェューエルホース(右)を接続する。



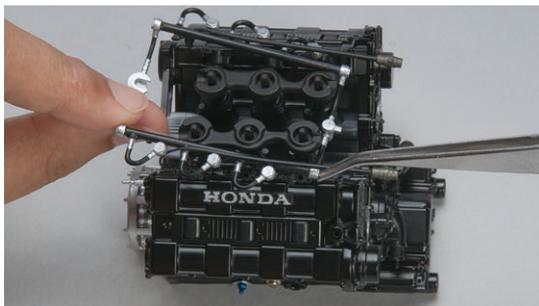
- フェューエルパイプの左側を、エンジンブロックの左側面にあるインジェクターの下になるようにしながら、各ホースの先端はインジェクターの上になるよう(黄色い矢印)、後方から差し込んでいく。



- 配置した状態。赤色がインジェクター、黄色がフェューエルパイプの位置。



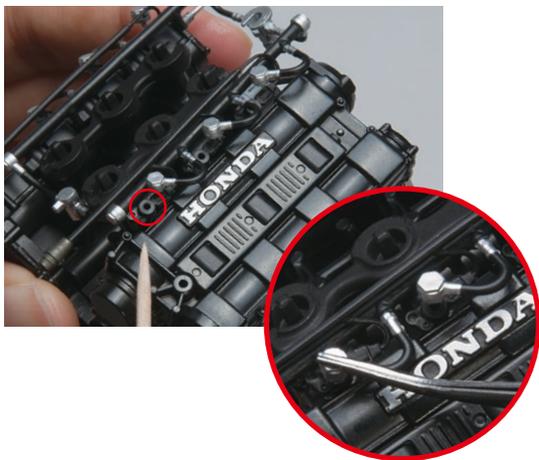
● エンジンブロックの右側面にも、フューエルパイプ右側を同様に差し込んでいく。



● 配置した状態。



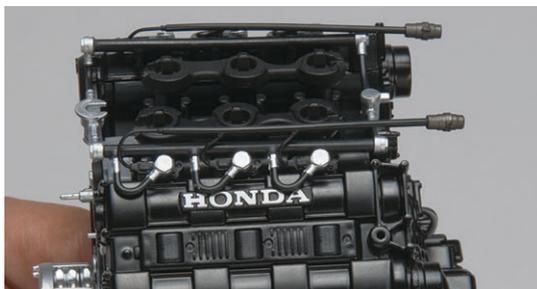
● エンジンブロックの左側面、一番前のインジェクターの穴につまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、フューエルパイプの先を差し込んで1分ほどおさえる。



● 同様に、2番目のインジェクターの穴にフューエルパイプの先を取り付けた後、3番目のインジェクターの穴にフューエルパイプの先を取り付ける。



● 同様の作業をして、エンジンブロックの右側面、インジェクターの穴それぞれにフューエルパイプの先を取り付ける。



● フューエルパイプが接着されたことを確認したら、インジェクターの直線部の形を左右ともに整える。



■ インジェクターの赤矢印で示した部分を、フューエルホースの付け根に押し込むと直線部が真っ直ぐになる。

● エンジンブロックに、フューエルパイプが取り付けられた。



今号の完成

ターボチャージャー(左)を組み立て、エンジンブロックにフューエルパイプを取り付けた。



保管パーツ

今号で使用しなかったランナーパーツの①ターボチャージャーE(左)、②ターボチャージャーE(右)、③ターボチャージャーD(右)、⑥ターボチャージャーC(右)、⑨ターボチャージャーF(左)と、57号で提供のランナーパーツの残りの①チェックバルブ、②フューエルコンプレッサー、③ウォーターインレット、④ヘッドタンクホース、⑤⑥スロットセンサー(右)(左)、⑦オイルフィルタージョイント×2は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

